



発行所
三池炭鉱労組
大牟田市不知火町2
電話(53)3033番
(53)3034番
編集兼発行人 前川 哲也
半年間1,200円 送料共

裁判公判日程
大災害裁判公判 五月十六日
午前十時から福岡地裁で、原告の証言を終り、いよいよよ会社側弁護士による反対尋問へ。
九・二八 坑内火災裁判公判

判 五月二十一日午後一時十分から福岡地裁で、吉田晴病院長に対する、会社側弁護士による反対尋問予定。
上村裁判 裁判所の和解勧告にもとずき、現在話し合い進行中。

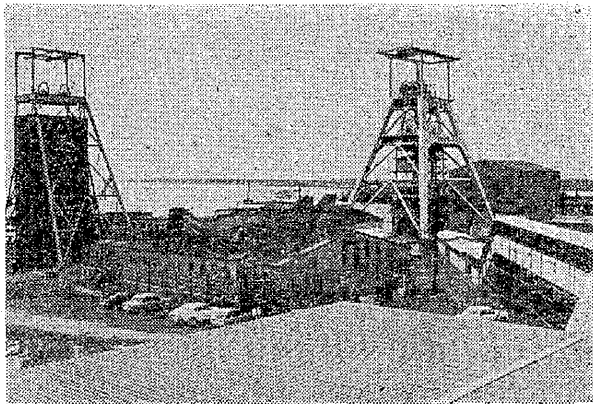
の手落ち、三職種合同作業がもつ危険性など、原因は会社の保安対策上の怠慢がこの場合もハッキリしている。
「このままでは、同じような災害はどこでも起こり得る」として組合は、全職種保安の見直し、総点検行動をどう、と呼びかけている。

なかでも中学三年の幸一君にすれば、高校進学直前におきた父親の災害死だったから、どんなに打撃が大きかったか。果たして、十五三年に七人、昨年に五人という実態だ。
原因が、会社がなにかまわらず強行し続ける合理化にあるのだから、誰もが知る通りだが、より基本的なことは、三池炭鉱労働者が今なお一つに団結できているという現実こそあるのだ。ましてストライキ権を売渡した、平二年後の三十八年には、とうとうあの三池大爆発をひき起こしてしま

い、一瞬にして四百五十八人の命が奪われる。その年の災害死者数、全部で四百七十四人。それでも会社の保安対策は緩く、三月十九日に、三池炭鉱は百二十八人ものほる災害死を出した。それが、全労働者をうって一九とする三池労組が誕生すると、死者数は年ごとに減っていき、三十四年にはわずか一人に減っている。

本人平均賃金の九十分、二十五年以上の者に二百四十日分とし、さらに一律十一万円を加給する。さらに再雇用制度金も有扶者三十五万円、単身者二十六万円ばかりの加給金を獲得した。
災害死者を出していく。それでも、五十二年と五十二年、おのおの二人ずつに減ったものの、次の年からまたえ続け

有明鉱で死亡災害



海浜に堅坑やぐらがそびえる有明鉱。向うは有明海。その深い地底で炭鉱労働者は働いているのだ。そこで、安達さんは死んだ。

三池労組ストで抗議

ずさんだった「保安管理」

大小災害が絶えぬ三井三池で、またしても重大災害が発生、そのため一人の坑内労働者が命を奪われた。三池労組はただちにストライキをうち、会社に抗議するとともに、近く保安団交を開き災害責任を追及する。

災害が起きたのは、三月五日午後七時三十分頃。有明鉱(北村剛三鉱長)の坑底、西二卸掘りゲートで採炭準備中の出来ごとだった。死したのは、安達幸好さん(46歳)。パンツァーコンベアー(46歳)の機械工と、応援のため配役された三人の採炭工が、パンツァーコンベアーのスライド

炭鉱の安達さんからのたを、コリス元と十五連チエーンが飛んで直撃した。すばりに一般化している、きわめてメソンの作業方法、作業管理上

命を奪われた安達さんは、大牟田市新勝立町四丁目宮前社宅に住んでいた。次の家族が、後に残された。妻のチヅルさんが四十四歳。子どもは二人。長男の幸二君が十三歳で中学三年、長女幸三さんが十一歳で中学二年だ。それに、狭心症治療のために今福岡病院(三井経営)に入院中の母親ツキキさんという母親がある。

三池炭鉱で、今年もついに坑内の災害のために死者を出してしまつた。こうして三池炭鉱の坑底は働く者の血で染まらぬ年はない。

三池における災害の歴史は、資本が、働く者をケラとも思っていない事実を語っている。災害を防止する力は、労働者の団結以外にないことだ。

太平洋戦争が終った昭和二十年に、三池炭鉱は百二十八人ものほる災害死を出した。それが、全労働者をうって一九とする三池労組が誕生すると、死者数は年ごとに減っていき、三十四年にはわずか一人に減っている。

また一つ山消える

北炭の清水沢鉱が

炭が伝えた情報によれば、一月に会社(北炭清水沢鉱。北海道夕張市清水沢町)から閉山提案を受けた清水沢支部は、かねて実力を行使しながら、閉山に伴う対置要求の獲得をめざし闘ってきた。

炭が伝えた情報によれば、一月に会社(北炭清水沢鉱。北海道夕張市清水沢町)から閉山提案を受けた清水沢支部は、かねて実力を行使しながら、閉山に伴う対置要求の獲得をめざし闘ってきた。

その結果、三月五日にいたり退職条件、雇用問題について了解点に達し、同鉱を四月二十九日限り閉山、同三十日をもって全員解雇を認めることをきめた。

退職金を、勤続一年未満の者に

退職金を、勤続一年未満の者に

退職金を、勤続一年未満の者に

炭労大会、春闘方針などきめる

あくまで満額獲得へ

もっと高額要求を、の声も

八〇政策春闘ほか、当面重大な課題となっている上期期末手当闘争、参議院議員選挙闘争などをきめる炭労大会は、三月十三・十四日東京・国労会館で開かれ、ほとんどの原案通りにつきま

炭労は、より春闘にスタートした。

炭労大会の中心議題は、なんといつても賃上げをめざす春闘方針だった。

すばにきまった賃上げ要求は、全鉱員一方当たり四百七十円、それに家族手当増額(第一順位五千円を六千円に、第二順位二千円を三千円に)で、両方合すると九・四%。出勤率からして約一万五千円(九・四%)の賃上げ要求額とされている。

もともとこの提案については、三池労組は、石炭産業の今日

い不満が述べられた。「過去二年間、賃上げは最低で終っている。もともと炭鉱労働者は、地下産業に働いている者として当然ながら、だが、他産業の労働者と比較にならぬ苦しい労働を余儀なくされてることを思えば、われわれの賃金は、もっと高く要求すべきだ。他産業との比較を口にするまでもない」

もともと三池労組の主張も同じで、これが意見の中心だった。でも最後には、石炭産業の今日

解説

三池炭鉱で、今年もついに坑内の災害のために死者を出してしまつた。こうして三池炭鉱の坑底は働く者の血で染まらぬ年はない。

三池における災害の歴史は、資本が、働く者をケラとも思っていない事実を語っている。災害を防止する力は、労働者の団結以外にないことだ。

太平洋戦争が終った昭和二十年に、三池炭鉱は百二十八人ものほる災害死を出した。それが、全労働者をうって一九とする三池労組が誕生すると、死者数は年ごとに減っていき、三十四年にはわずか一人に減っている。

安達さんの死は—何を教えているか

憲法無視の徴兵制実施要求
二月七日、関西労連が主催する「憲法無視の徴兵制実施要求」の決議が、関西労連の機関紙「労働者」に掲載された。これは、徴兵制は、青年を「赤紙」(召集令)一枚でひっぱたき、人件費を安上がりに軍隊をつくるシステム。わが国の支配層は、間違いないく安楽・自衛隊の維持増強を、一歩ずつ、軍備増強に乗り出している。もう憲法などの制限にかまっておられないという態度。

ないしょの話

三井独占資本が、カナダやオーストラリアなど、海外の炭田を開発し、積極的に資本を進出していることは、本紙前号で伝えた。

貯炭の山の向う側で

資本は何をたくらむか

力炭電で油に比べ、国内炭の割合はトントン当り五千八百円となりまし。外炭もさらに値上がりすることは必至であり、今後は、国内炭が最も進出も計画されている。

右に示すように、国内炭に